
モノクロの世界で。

渚科。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

モノクロの世界で。

【Nコード】

N2737BA

【作者名】

渚科。

【あらすじ】

図書館の中庭。

そこに集まる暇人の話。

いつもの場所。

木製のベンチ。

青々と茂ってる芝生。

太陽を隠してるような

おっきな木の下。

ここが今のあたしの居場所。

図書館の中庭はいつも人が少ない。てかない。

他の利用者は知らないのかな。

ここ超快適空間ですよー！

冬はちょっと寒いけど、

この木の下は日差しは柔らかくてぽかぽか気持ちいい。

図書館の掃除のおばさんが毎日頑張ってる、白やピンクの花の香りはあたしを幸せな気分させてくれる。

ということ、この庭はあたし、

未森 佑「ミモリユウ」のお気に入り場所になってます。

図書館であたしの大好きな池谷翔先生の小説を借りてこの中庭のベンチで読む。

誰も干渉することのないこの空間は、最高に居心地がいい。

ピバ、読書ライフ！

いつもの佑。

中庭で1人わくわくしながら借りてきたばかりの小説を取り出す。もちろん池谷先生の本だ。

池谷先生の本の題名はいつも漢字一文字で、その一文字のなかにお話の意味を全て込めるとというのが彼の本への愛情らしい。

あたしが今持ってるのは”灯”という本。

基本あたしはあらずじを読まない派。

1回読み終わってから読み直す時に読む事にしてる。

だから、手にとってすぐ1ページ目を開く。

1文字ずつ、ゆっくりと読んでいくと階段を降りるみたいにあたしの意識は本の中へと入っていく。

.....

「未森？」

俺が目の前で手を振ってもなんの反応もない。

…ダメだ。完全に読書モードだ。

これだから嫌なんだ！

毎回毎回中庭来る度にいつものベンチで本読んでるこいつ。

ちいせえ時からずっと一緒にいる幼馴染がいるから、あたりまえに声かけてんに綺麗にシカトしやがる。

ぶっちゃけると、俺はそこそこ人気のある方だと思う。学力も運動神経も中の上。見た目は…3日に1回は告られるくらいだ。

笹鳴翠斗「ササナキスイト」と書いてある俺の下駄箱には、週1ペースで手紙がはいつてる。

だからほとんどの女子は俺が声をかければ、そんな時にしても必ず振り返る。

そんな俺をシカトすんのはこいつぐらいしかいねえ。

声かけて目の前で手え振り回してんでシカトされるなんて、まわりから見れば俺は完全に不審者だ。

だけど都合のいい事にここにはなかなか人が来ない。

俺はいつものベンチ、未森のベンチの向かい側のそれに腰掛けた。

いつもの人達。

「みつもりいーん！」

語尾に音符やら星やら付きそんな言葉と一緒に、あたしの目の前にあった本がなくなった。その代わりに、ある先輩の顔がどアップで目に映った。

「牧村先輩、本返してください。」

「やだよー。・牧村先輩・じゃなくて、”類”って呼んでくれたらいいよっ！」

「…おい能天気阿呆男、本返しやがれ！」

「類って呼んで？」

…ああもうこの人嫌だああああ！

この能天気阿呆男こと牧村類「マキムラルイ」先輩はあたしのいつこ上の高校2年生だ。容姿端麗・運動神経抜群・親は貿易会社の社長さんという、どこの恋愛小説の主人公だよっつー完璧男だ。

しかあし！こいつはなぜか事あるごとに、あたしに絡んでくる変態なのだ！

「類先輩、本返してやってください。」

お？誰の声だ？あたしの視界は変態によって塞がれているので、ほ

ぼ牧村先輩しか見えない。

体を右に傾けてみると、そこにはあたしの幼馴染の姿があった。

「あ、翠斗だ。」

「『あ、』じゃねえこのあほう！おめえ、また俺の事シカトしやがって俺不審者みてえじゃねえか！」

「うそ、ごめんごめん。悪気はなかったんだ、ちよつとしか。」

「ちよつとはあつたんじゃねえか！お前まじでしばくぞ！」

このちよいヒステリックな幼馴染により、あたしの池谷先生の本は取り返された。

翠斗とあたしと牧村先輩で騒いでいると、図書館のほうからあたしの心の師匠が現れた。

「なあに？また類がなんかやらかしたの？」

「唯先輩、この変態どうにかしてくださいよお。」

「ええ！変態ってひどいよ！てかなんで唯は名前呼び出しなのに俺だけ苗字なのさあ！」

「うっさいよ類。君が変態である事には変わりないんだから、黙って佑ちゃんに謝んなさい。」

流石です、唯先輩！この椎名唯「シイナユイ」先輩は、あたし、翠

斗、牧村先輩の高校である泉が丘学園の生徒会長で、牧村先輩を黙らせられるお方なのです！

そしてこの人も牧村先輩と同じ様なスペックの持ち主さんなのだ！

「だってね、みもりんがね、俺のこと類って呼んでくれないからさあ……」

「いいから謝れ。じゃないと今度の学園祭の生徒会長スピーチで君が変態である事を全校生徒の皆さんにバラすぞ。」

「すみませんでしたあああ！」

「うわ、すげえスライディング土下座：椎名先輩恐るべしだな。」

牧村先輩の頭はあたしの足元にあるまま、ピクリとも動かない。

「あの、牧村先輩？大丈夫ですk「てい！みもりんの今日のパンツ水玉！」

「やめいあほ！どこに謝ったばっかなのに後輩のスカートめくる奴がいるんだ！」

「…おい変態、いつぺん死ね。」

「すみません類先輩、俺にはこの人達を敵にまわす勇氣はありません。」

「ひどいよ翠斗お！ってちょい待って！せめてパーでお願いします
ううう！…！」

そしてこの後、あたしと唯先輩によって牧村先輩は30回ほど土下座する事になりました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2737ba/>

モノクロの世界で。

2012年1月7日11時25分発行